

平成23年6月17日

日本地球掘削科学コンソーシアム会員提案型活動経費報告書

提案名：IGCP-581第二回シンポジウム「アジアの河川システムの発達：テクトニクスと気候」
代表者：山本正伸（北海道大学大学院地球環境科学研究院）
共同申請者：入野智久（北大），長谷川精（北大），多田隆治（東大）
助成額：198,400円

目的と概要

UNESCOおよびIUGS（国際地質科学連合）が後援するIGCP（地質科学国際研究計画）-課題581号「アジアの河川システムの発達：新生代テクトニクス、気候変動、地化学サイクルとのリンケージ」の第二回シンポジウムを平成23年6月11日-6月12日に北海道大学で開催し、6月13日-14日に石狩川流域で巡検を行った。

IGCP課題581号は、IODP, ICDP, IMAGESなどの試料採取計画を活用することにより陸域、海域の堆積物コアを採取し、その堆積記録を用いて、アジアの大河川系の発達史、チベット高原とモンスーン発達史と両者の関係を編み、アジアの大河川の堆積物質量収支とその侵食、風化、堆積を調べて全球規模の地球化学サイクルへの寄与を評価し、新生代におけるテクトニクス、化学風化、モンスーン発達史を、数値モデルを用いて明らかにする研究を、協力して進めることを目的としている。当シンポジウムでは、この目的を達成するために必要な研究戦略を議論した。

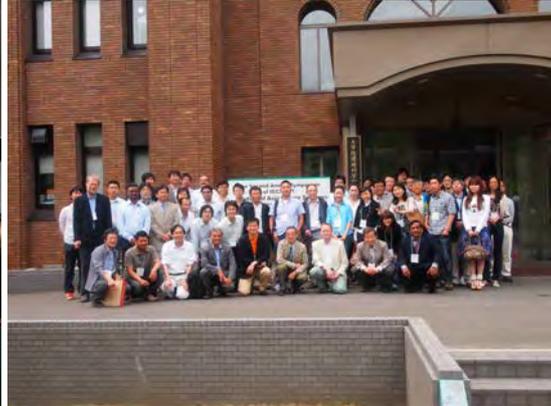
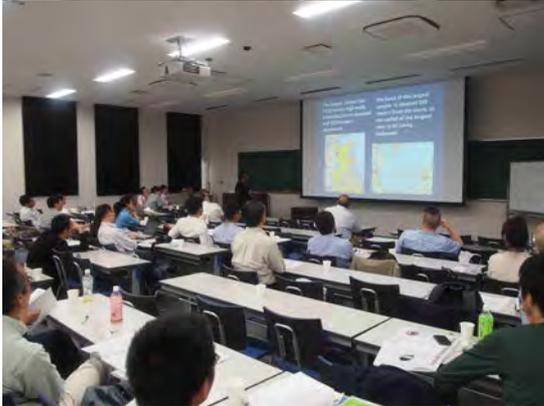
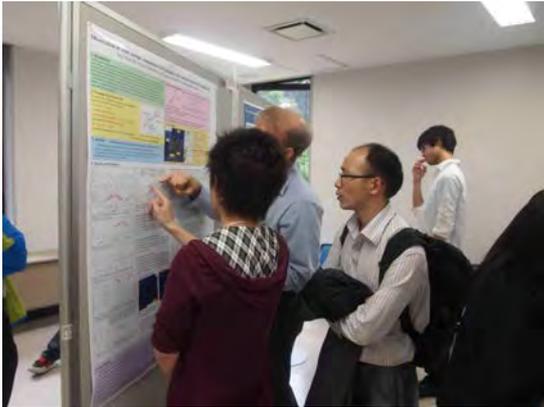
シンポジウムの概要

平成23年6月11日-6月12日の2日間、北海道大学大学院地球環境科学研究院大講義室において、口頭発表26件、ポスター発表27件の計53件の研究発表が行われた。研究発表は以下の3つのセッションで行われた。

- 1) アジア河川系の現在プロセスと地球化学サイクル
- 2) アジアモンスーン変動に対する河川系の応答と縁海への影響：陸上・海洋記録：新掘削プロポーザル作成に向けて
- 3) アジア河川・大陸棚と新生代テクトニクス・気候変化との関連：新掘削プロポーザル作成に向けて。

12日の午後に行われた討論セッションでは、重点的に推し進める研究の戦略について話し合い、ICDPとIODPのプロポーザルをより密接にリンクさせることの必要性が指摘された。また、具体的提案として、東シナ海で黒潮に直交する方向にトランセクトをとり、黒潮流速変動を復元する案などがシンポジウムで紹介された。

参加者：計61名（うち学生23名）。10ヶ国（日本、中国、韓国、台湾、インド、ネパール、スリランカ、英国、米国、ドイツ）から。



巡検の概要

平成23年6月13日-6月14日の2日間、石狩川流域において、河川堆積物とテクトニクスの関係について現地露頭を前に討論した。主なストップ地点は以下の通り。美唄炭鉱，神居古潭，層雲峡，大雪ダム，美瑛，富良野採石所，三段滝，三笠博物館。

参加者：計34名（うち学生14名）。8ヶ国（日本，中国，韓国，インド，スリランカ，英国，米国，ドイツ）から。



2nd Annual Symposium of IGCP-581 (Field Trip):
Geology and Geomorphology along the Ishikari River in central Hokkaido



Place: Sanbi Coal Mine, Bibai City, Hokkaido, Japan
Date: 13 - 14 June 2011

まとめ

多くの掘削コアを用いた研究成果が公表され、今後の研究展開戦略が議論された。将来の IODP および ICDP 等の科学掘削にむけて、堆積物から風化・侵食を評価する指標を確立することの重要性が認識された。

謝辞

J-DESC からの助成金は、要旨集（86 ページ）と巡検案内書（43 ページ）の印刷費、看板代として使用した。また供与いただいた J-DESC ボールペン、Scientific Drilling, Chikyu Hakken を配付した。さらに、IODP ポスター1枚と J-DESC ポスター2枚を会場に貼った。今回の J-DESC からの助成のおかげで、大成功のうちにシンポジウムと巡検を完了することができた。関係各位に心から御礼申し上げる。

IGCP-581 第二回シンポジウム「アジアの河川システムの発達：テクトニクスと気候」収支
収入

項目	金額	備考
コンソーシアムより（本申請）	198,400	
登録料（参加者より徴収）	275,000	@5000 円×55 名=275,000 円
巡検費（参加者より徴収）	480,000	@15,000 円×32 名=480,000 円
北海道大学環境科学院 GCOE より補助	466,000	
IGCP より助成	600,000	
東京地学協会より助成	300,000	
合計	2,319,400	

支出

項目	金額	備考
看板代	25,000	コンソーシアムから支払い
印刷費	173,400	コンソーシアムから支払い
会場係りアルバイト代	132,300	東京地学協会から支払い
低所得国参加者の旅費補助	672,240	IGCP, 東京地学協会から支払い
低所得国参加者及び学生参加者の宿泊費補助	490,580	北大 GCOE, 東京地学協会から支払い
コンGRESバックの中身（ノートとその他配付物）, レセプション	275,000	登録料から支払い
巡検	480,000	巡検費から支払い（独立採算）
文房具, 紙, その他消耗品	70,880	北大 GCOE から支払い
合計	2,319,400	